

留学体験談

プログラム名	The Summer School at Hamm-Lippstadt University of Applied Sciences: The Business of German Engineering
留学先	HSHL （ドイツ、ハム）
留学期間	2025 年 7 月 6 日～7 月 19 日の約 2 週間
学部学科/専攻 学年	情報フロンティア学部 メディア情報学科 4 年

今回の留学に参加を決めた理由は主に三つあります。第一に、将来海外で働く可能性を視野に入れており、実際に海外企業を訪問できることは非常に貴重な経験になると考えたからです。第二に、以前から興味があったドイツの文化を実際に体験してみたいと思ったからです。特に、昨年日本に来ていたドイツの交換留学生と交流したことで、その思いがより強くなりました。第三に、このプログラムは世界各国（イギリス、アイルランド、エジプト、アラブ首長国連邦、ウクライナ、ガーナ、パラグアイ、ウルグアイ、アメリカ）から学生が参加しており、異なる文化や価値観に触れることへの期待がありました。

プログラム中は、午前 HSHL の教授による講義、午後企業訪問というスケジュールで進行しました。講義では訪問先の背景や業界動向、ドイツの歴史などを学び、予備知識を得た上で現地を訪れることで理解が深まりました。訪問先は半導体、バイオメディカル、再生可能エネルギー関連など多岐にわたり、専門分野を超えた幅広い視点を得ることができました。

中でも特に印象に残っているのは、再生可能エネルギー分野の企業訪問でした。建築や都市計画の段階から環境配慮が組み込まれ、日常的にそれが実践されている姿に驚きました。日本では省エネや CO₂削減が主な関心ですが、そこでは環境への配慮が働き方や価値観そのものに根付いており、考え方の違いに大きな刺激を受けました。

企業訪問以外の時間にも多くの学びと交流がありました。シティツアーでは街を巡り、地域の歴史や文化に触れることができました。自由時間では、さまざまな母語や自国の文化を教え合っていたことが印象的でした。



短期間でしたが、言語や文化の違いを超えて協力し、互いを理解しようとする姿勢の中で、唯一無二の友情が生まれていたと感じます。

この留学を通じて、異なる価値観を尊重しながら、自分の専門外の分野にも関心を持って多角的に学ぶ姿勢の重要性を実感しました。また、日本とは異なる文化や働き方に触れることで、自分の視野が限定的だったことに気づかされました。今後はこの経験を活かし、異文化や異分野とのつながりを大切にしながら学びを深め、将来的には海外で働く可能性も現実的な選択肢として考えていきたいです。